

2024 年度日本認知症ケア学会・認知症ケア賞 実践ケア賞

一般社団法人はるそら

【設立年月日】2019 年 4 月

【授賞理由】

本団体は、若年性認知症の本人とその家族への包括的な支援を提供し、認知症診断後の不安を軽減する役割を果たしています。定期的なミーティングや相談会を通じて、本人と家族が社会から孤立することなく必要なサポートを受けられる体制を整え、多世代間の交流を促進しています。このような総合的な取り組みが認知症への理解を深め、地域社会における支援のモデルとなっており、認知症ケア賞（実践ケア賞）の受賞に相応しいといえます。

【団体概要】

若年性認知症の現状には、診断前後に相談できる機関が少なく、病気への理解不足や適切な支援体制が整っていないため、将来の不安や絶望から本人が家に引きこもり、誰とも接点を持たないまま、症状が進んでしまう空白期間があります。そのため、早期発見が早期絶望となりどこへもつながらずに、重度になってからの支援になることが多いのが現状です。その空白期間を短くして、本人、家族を含めた相談先や居場所が必要と、代表理事自らの介護体験から「一般社団法人はるそら」を立ち上げました。

本人、家族、専門職との交流の場や学習の場を通じ若年性認知症の方が孤立しない地域づくり、ネットワークづくりを行っています。

【事業活動】

1. 岡山県内外の若年性認知症の診断を受けた方やその家族への支援及び認知症の診断前後の方への支援。
2. 本人、家族への同行支援、障害職業センターの面談、デイサービス等同行見学
3. 本人が、日頃の思いを話し一緒に考える居場所「本人ミーティング」月 2 回開催（うち 1 回は就実大学にて学生と交流も兼ねて行っています）
※2022 年 4 月「はるそら広場」「はるそらしゃべり場」に名称を変更
4. 介護相談や孤立している家族同士で話ができる場「はるそらしゃべり場」月 2 回開催（うち 1 回は就実大学にて学生と交流も兼ねて行っています）
5. 岡山県や県内外からの本人、家族の電話相談
6. 本人、家族の情報や知識を得る場「はるそらゼミナール」年 3 回（2022 年実績）
7. 仲間と一緒に外出する「はるそらお出かけイベント」年 1 回（今年度は高知県在住の山中しのぶさんが代表のでいさあびすへ見学研修）
8. 市内外から依頼のあった講師、講演会への参加
9. 県立大学竹本教授の研究事業「本人家族のニーズ調査」（資料添付）

10. 多世代交流「美作大学」年1回,「就実大学」月1回,「岡山県立大学」月1回
11. 特別養護老人施設への講座 計8回
12. 岡山市認知症ピアサポート活動支援事業の受託

【褒 賞】

NHK 厚生文化事業団「認知症とともに生きるまち大賞」

【業 績 等】

「認知症と診断された方に、はるそらにきたら、笑顔になって帰ってもらいたい」と言われた若年性認知症の本人の言葉を大切に活動しています。

認知症の診断から、関係機関につながるまでの空白期間を短くして、本人、家族を含めた相談先や居場所が必要と、代表自らの介護体験から「一般社団法人はるそら」を立ち上げました。

大切にしていることは「本人の自立と尊厳」です。若年性認知症への理解促進を行い、認知症への固定観念を払拭し偏見をなくすため、情報発信や研修、講演活動を行っています。

支援者、介護者という視点である「支援する」「してあげる」という一方的な考えから離れ、双方の思いを重視し、一緒にいる「伴走者」として、若年性認知症と診断された本人、家族、支援者とともに活動しています。本人・家族が孤立しないよう、はるそら広場などの集まる場以外にも SNS を活用した情報交換や、相談なども行っています。双方が楽しめること、これからのこと、やりたいことを一緒に考える場としてあるのが「はるそら」です。若年性認知症の本人からは「居場所ができた、安心する場所がはるそらです」と言われています。はじめは集まる場に入ることができなかった本人も、回を重ねるごとに徐々に顔見知りとなり一緒に輪に入り、活動できるようになりました。参加された家族から「自分が抱え込んでつらいと思っていたときのことを、今感じている人もいると思う。次は私がそんな人の力になりたい」と家族のピアサポートの輪も広がっています。

また、県内の学生（福祉学科や、その他の学部含む）との交流の輪が広がっています。本人と一緒にできる活動として、学生とスポーツや、将棋、オセロなどをしています。

学生に、認知症の固定観念を払拭してもらえたと感じています。

去年は、倉敷市真備町へ就実大学の学生と一緒に出かけ、交流しました。

西日本豪雨災害について真備町の介護施設の方にお話を伺いました。

地域の新聞社の方が定期的に取材に来られ、活動を紹介してもらうことで応援してくれる方が増え、記事を見た方から、相談につながるケースもあります。

今後も、現在の活動を継続し、若年性認知症の方の居場所づくり、認知症への理解促進のための啓発活動等を行っていきたいと思っています。そして、若年性認知症の本人、家族が働ける場所として、また多世代の交流を目的とした「コミュニティカフェ」の開設を将来の目標としています。